

千葉学習センター客員教員による

「ミニゼミ」 受講生募集！

「ミニゼミ」は放送授業や面接授業と違い、少人数で教員を囲みながら、各教員の専門分野をテーマに、発表、討論、実験、観察、課外活動など様々な学習スタイルで行われています。年齢や性別も異なる学生のみなさんが、指導教員のもと、共通のテーマを学びながら毎回楽しく活動しています。興味のあるテーマを学ぶとともに、他の学生や教員と交流していただくことも目的としていますので、試験や成績判定といったことはありません。2024年度4月期は11のゼミで受講生を募集します。放送大学の学生であれば、どなたでも無料（一部ゼミは費用負担あり）で参加できますので、ご興味のある方は、是非お申込みください。なお、2020年度よりZoomを利用した遠隔ゼミを実施するゼミがありますので、ご自宅等のネット環境等をご確認願います。

【参加申込方法】 4月6日（土）14時から申し込みを開始します。

- ① 「ミニゼミ参加申請書」（千葉学習センターウェブサイトトップページ・ロビーなどで配布）に必要事項を記入のうえ、**学習センター窓口もしくはメールにてご提出下さい。**メールアドレスは「chibagaku_soumu@ouj.ac.jp」です。
※原則先着順とし募集定員がオーバーした場合は、その時点で募集を終了します。また、電話、郵送等での受付は行いません。
- ② 申請書の提出後、学習センターより各講師へ申請書を送付し、講師から受講の可否について回答があり次第、センターより結果および次回開催日時をご連絡します。
※掲載内容は、2024年4月6日（土）現在のものです。今後、定員に達した時点で募集を中止します。
※見学も随時募集中です。気になるミニゼミがございましたら、お電話もしくはメールにて千葉学習センターまでお知らせください。

《千葉学習センター》 TEL: 043-298-4367 E-mail: chibagaku_soumu@ouj.ac.jp

子どもを理解し、子どもに学ぶ（金子先生ゼミ）

- 講師：金子 智栄子（文京学院大学教授）
- 募集定員：10名程度
- 開催日時：原則として、月1回、第4火曜日午後 4月は23日（火）12時30分～15時30分を予定
- 内容：子どもは可愛いですが、それ以上に面白い存在です。特に年齢が低いほど見るものすべてが新鮮で、この世は発見に満ちています。よちよち歩きの赤ちゃんは、知的好奇心に満ち溢れたキラキラしたまなざしをもっています。そのようなまなざしを大人になっても持ち続けられたら、人生は幸せなことでしょう。乳幼児期の体験は、その後の発達にも大きな影響を与えます。そこで、乳幼児期からの子どもの発達について共に学び、子どもの素晴らしさを共有したいと思っています。さらに受講生ご自身の発達についても、振り返る機会にしたいと思っています。
- 受講条件：初回開講時に、参加者から今年度のゼミの内容についてご要望を伺います。状況によっては、ご相談のうえテキストを使用することがあります。ゼミは教室での対面を原則としますが、Zoomを利用した遠隔で実施する場合があります。
- 予定：4月23日・5月28日・6月25日・7月23日・8月27日・9月24日・10月22日・11月26日・12月17日(第3) 1月28日・2月25日・3月25日

光が関わる物理を楽しむ（偏光アート、構造色から天然石まで）（三野先生ゼミ）

- 講師：三野 弘文（千葉大学教授）
- 募集定員：10名
- 開催日時：毎月第3日曜日 13時～15時 4月は21日（日）13時～15時（変更がある場合は事前に連絡します）
- 内容：光が関わる身近な物理現象について解説を行います。その上で、偏光アートといった、偏光板とセロハンテープなどの複屈折を有する物質の相互作用で、様々な色の変化が生じる原理について、お話し、実際に数式を用いた計算や、アート作品の制作など体験してもらいます。構造色は、タマムシのキラッとした輝きや、クジャク、カワセミの羽、モルフォ蝶の鮮やかな青色などが有名ですが、ヒドロキシプロピルセルロースと水を使用して構造色を実現することができます。この構造色を示す液晶アクセサリーの作製を行います。アクセサリーは、発色するまでに時間がかかりますので、1カ月後のミニゼミで、発色のメカニズムや温度で色が変化する様子など体験しながらの学びを提供します。様々な色を示す天然石ですが、アメシストやシトリン、タイガーアイなどは主成分がSiO₂と同じです。光を使って主成分が同じかどうかを見分ける実験についても解説します。
- 受講条件：受講条件は特にありません。ミニゼミでは、放送大学内の実験室を使い、簡単な工作、実験、観測も含めて学んでいきます。光スペクトルを計測する装置の使用も予定していますが、実測したデータを用いた解析などを体験されたい方は、ノートPCをご持参ください。

保健の授業を学び直す（高橋先生ゼミ）

○講師：高橋 浩之（千葉大学名誉教授）

○募集定員：10名程度

○開催日時：第1、第3火曜日の14時～16時 相談の上、変更する場合があります。4月は継続生のみで開催。新入生は5月15日(水)から。希望者は4月の見学も可。

○内容：皆さんの多くは「保健」を中学・高校で受けた退屈な授業と考えているでしょう。しかし、実際には、新たな感染症から最新のがん治療、性についての自己決定から高齢者の健康、心肺蘇生法から医者のかかり方など、面白い上に人生の基盤になる内容を保健は扱っているのです。このゼミでは、高校の教科書を題材にその背景やさらに深い知識、また、発展的な内容に関してみんなで学んでいきます。

○受講条件：大修館書店の高校保健体育教科書「現代高等保健体育」（保体701）を教材とします。定価は705円です。教科書特約店でのみ売っているため、各自用意して下さい。

地層の縞模様から読み解く大地の成り立ちと地球環境変動史（伊藤慎先生ゼミ）

○講師：伊藤 慎（千葉大学名誉教授）

○募集定員：10名程度

○開催日時：原則として月1回、土曜日の13時～15時を予定 4月は20日（土）13時～15時

○内容：地層には様々な形、厚さ、長さ、高さなどを示す縞模様が観察されます。このような縞模様は「堆積構造」とよばれ、地層を構成する粒子が運搬され堆積するまでの一連のプロセスの特徴が記録されています。したがって、堆積構造の特徴から地層を形成した流れの種類、方向、速さや強さ、深さや厚さなどの特徴を解読することができます。さらに、堆積構造の特徴から、地層が形成された堆積環境の変遷やその要因を解読することができます。このゼミでは、講義や文献の輪読、さらには室内実験や野外観察などをおして、「堆積構造」の特徴と形成プロセスの理解を深めるとともに、堆積構造から読み取れる大地の成り立ちや太古から現在に至る地球環境変動史の理解を目指します。

○受講条件：室内実験や地層の野外観察を行うため、学生保険の加入が必要となります。野外観察では、現地集合現地解散を原則として、千葉県内あるいは周辺地域の地層を主な観察対象とする予定です。ゼミの資料は適宜配付する予定ですが、以下の2冊を参考書とします。

（1）Geoワールド 房総半島 楽しい地学の旅 mihorin 企画

（2）フィールドマニュアル 図説 堆積構造の世界 朝倉書店

年に3回程度野外巡検（地層や岩石の野外での観察会）を実施する予定です。野外巡検では、トレッキングシューズとヘルメットの着用を原則とします。ヘルメットは、千葉学習センターから借用できます。巡検に参加される場合には、別途、実施要項をメールで連絡します。

ヴァイオリン・アンサンブルの楽しみ（伊藤誠先生ゼミ）

○講師：伊藤 誠（桐朋学園芸術短期大学特任教授）

○募集定員：2～3名程度

○開催日時：木曜日（月3回開講） 4月は25日（木）11時～

○内容：ヴァイオリンの構え方や正しい姿勢、楽器の手入れの仕方から始まり、音程づくりの初歩はピチカート奏法（指で弦を弾く方法）で進めます。左手の型が身に付いてきた時点で、弓（ボウイング）を使って音を作っていきます。導入期の教材は「わらべうた」や「童謡」ですが、単に楽譜通りに演奏するだけでなく、簡単なアンサンブルの形態を取り入れながら、楽しく楽器に親しんで頂くことをねらいとしています。個別指導と集団学習を併用して進めます。他の受講生の練習を参観することも大切です。自分が属さないグループが参加する週に見学することは自由です。時間のゆとりがある方は予習・復習に役立てて下さい。

○受講条件：ヴァイオリン学習未経験の方々、大歓迎なのですが、簡単な楽譜が読めることと、楽器を持参できる方を条件に受け入れます。これを機に楽器の購入をお考えの方は、伊藤にご相談下さい。特に購入して頂くテキストはありません。課題（教材曲）は事前にお知らせします（メールによる添付ファイル）ので、予習を心がければ学習の効率が上がると思います。

4月25日（木）に、配属するグループを決めますので、11時に集合して下さい。

毎回の時間配分は ①11時～12時、②13時～、③14時45分～15時30分 となっています。

①と③は全体指導（＝集団学習）、②は個別指導（＝個人レッスン）の時間です。

過去2回、指導の成果発表のため音楽会を第1講義室にて開催しました。現在のゼミ生は21名です（昨年度までは「ヴァイオリンサークル」として活動してきました）。すでに3つのグループ分けができています（各グループ6～7名）。受講者どうして意見交換することも大切な時間になるでしょう。なお、毎月の全体指導の内容は3回とも同じです。

生活環境中のカビ（矢口先生ゼミ）

○講師：矢口 貴志（千葉大学真菌医学研究センター准教授）

○募集定員：10名程度

○開催日時：土曜または日曜日の午後の2～3時間 4月は6日（土）午後を予定

○内容：月1回、講義のあと討論するセミナー、残りの時間は、それぞれが自由に観察、実験など行う。現在、予定しているテーマは以下の通りである。

1. 真菌の分類体系
2. Aspergillus の分類
3. Penicillium の分類
4. 室内環境のカビ
5. 内臓真菌症原因菌
6. 皮膚真菌症原因菌
7. マイコトキシン
8. カビが産生する有用物質
9. 耐熱性カビ

○受講条件：実験室で培養実験等も予定していますので、これらの活動に参加ご希望の方は学生保険への加入が必要です。

薔薇学講座（御巫先生ゼミ）

○講師：御巫 由紀（千葉県立中央博物館自然誌・歴史研究部植物学研究科長）

○募集定員：10名程度

○開催日時：原則として毎月第3土曜日13時～15時（4月、5月は10時～12時）

〈年間予定〉

4月20日（土） 春のバラ園見学1 @京成バラ園（午前開催）

5月18日（土） 春のバラ園見学2 @佐倉草ぶえの丘バラ園（午前開催）

6月 8日（土） バラの挿し木入門 @千葉学習センター

7月27日（土） 世界のバラ園 @千葉学習センター

8月17日（土） バラの植物学1 @千葉学習センター

9月21日（土） バラの植物学2 @千葉県立中央博物館

10月26日（土） ニロ善雄の「ばら花譜」 @千葉県立中央博物館

11月16日（土） 秋のバラ園見学 @横浜イングリッシュガーデン

12月14日（土） バラの歴史 @千葉県立中央博物館

1月18日（土） 江戸時代のバラ1 @千葉学習センター

2月15日（土） 江戸時代のバラ2 @千葉県立中央博物館

3月 8日（土） レポート発表会 @千葉学習センター

○内容：園芸植物として長い歴史を持つバラについて、植物学、歴史、美術等あらゆる面から、バラの魅力を解説する。バラは西洋文化の象徴のように思われているが、約200年前にアジアのバラがヨーロッパに運ばれ、育種に用いられて初めて現代の栽培バラが誕生した。日本に16種類ある野ばらの見分け方、バラの育種において日本の野ばらが果たした役割、オールドローズとモダンローズの系統、日本のバラの歴史等について、教室での講義とバラ園の見学を合わせたゼミを行う。

○受講条件：・野外実習を行うことがあるため、学生保険加入が必要。

・『野ばらハンドブック』（文一総合出版）をテキストとして使用。

・バラ園等でゼミを行う場合は入園料等が必要となる場合がある。

私の推しの古典文学（柴先生ゼミ）

○講師：柴 佳世乃（千葉大学教授）

○募集定員：10～15名程度

○開催日時：原則として毎月一回、火曜日13時～2時間程度。第4火曜日を中心に、適宜相談の上、変更の可能性有り。

4月23日（火）13時～ ＊顔合わせとガイダンスを行います。

○内容：古典文学には、古くて新しいいろいろな要素が詰まっています。日本の古典文学の中で（どの時代でも結構）、自分が興味を持っている／気になる／これから読んでみたい作品を各自取り上げ、その特徴や面白さについて、自由に発表してもらい、皆で議論します。自分の〈推し〉の古典文学の特徴を再発見するとともに、たくさんの作品に触れることで、多様な古典文学の面白さを皆で共有したいと思います。

○受講条件：1年に一度はミニゼミ参加者全員に発表をしてもらう予定です。人文系の調べ方、工具書の使い方、資料の作り方は、受講者に応じてご指南します。まずは自分のやりたいように調べ考察して発表し、それをもとに皆で議論します。自分でチャレンジして「楽しむ」のが一番です。そうすると、新しい世界がどんどん拓けてきます。文学が好きな方、自分の引き出しをより充実させたい方、新しいものに触れてみたい方、どうぞご参集下さい。

以前に開講していた「仏教儀礼を知る、考える、味わう」を発展的に引き継ぐものです。古典文学には仏教と関わる作品が多く、あるいは仏教書そのものを取り上げるのでもOKです。

音環境文化ゼミ（サウンドスケープ）（兼古先生ゼミ）

○講師：兼古 勝史（立教大学社会学部メディア社会学科兼任教員、日本サウンドスケープ協会理事）

○募集定員：5名程度

○開催日時：月2回程度（第1学期は原則火曜日午後、第2学期は原則金曜日午後の予定、応相談） 4月は23日(火)を予定

○内容：私たちの周りには音楽・騒音・自然環境音・暮らしや日常の音など様々な音があります。こうした音世界を人間が体験する「風景」としてその意味や価値を考えるのがサウンドスケープ研究です。本ゼミではこのサウンドスケープの考えをベースに、「音」「音風景（サウンドスケープ=Soundscape）」をキーワードに地域・環境・社会・メディアを探り、音のフィールドワークやアーカイブの作成、音によるメディア発信等を目指します。様々な音風景や音環境デザインの現場を体験する「野外フィールドワーク」と、地域の音風景の歴史と変遷を過去の資料から調べる「イヤーフットネス調査」、生活や環境の中からなくなってしまった・なくなりつつある音について調査しまとめる『音のレッドデータブック』の制作、野外の音環境を録音するフィールドレコーディングなどを目標とし、参加者の状況や人数、希望によって内容・分担を決めていきます。

○受講条件：音楽の経験は問いませんが、音楽を深める上でも意味のある活動です。パソコンの初歩的スキル（ワード、エクセル、インターネット検索、メールの送受信など）がある方が望ましいです。

ジェンダー・セクシュアリティについて考える（片岡先生ゼミ）

○講師：片岡 洋子（千葉大学名誉教授）

○募集定員：10名程度

○開催日時：原則として第4木曜日午後開催していますが、参加学生と調整の上変更することもあります。

4月は25日（木）14時～16時を予定

○内容：ジェンダー・セクシュアリティについての世界と日本の課題について考えるため、関連した本を読んでいます。2023年度は神谷悠一『差別は思いやりでは解決しない ジェンダーやLGBTQから考える』（集英社新書 2022年）、辻村みよ子『ポジティブ・アクション』（岩波新書 2011年）を読みました。2024年度は、三浦まり「さらば、男性政治」（岩波新書 2023年）を読みます。価格も安く、読みやすい新書を選んでいますので、参加する場合は本を購入しておいてください。○受講条件：辻村みよ子『ポジティブ・アクション——「法による平等」の技法』（岩波新書、2011年）を古本で入手してください。主に Zoom を利用した遠隔で実施しています。

スペイン語とスペイン・ラテンアメリカの文化（青砥先生ゼミ）

○講師：青砥 清一（神田外語大学教授）

○募集定員：10名程度

○開催日時：隔週土曜日14時～16時（月2回） 4月は13日（土）14時～16時と27日（土）14時～16時を予定

○内容：前半の1時間はスペイン語作文を練習します。後半の1時間は、スペイン・ラテンアメリカの文化・歴史などに関するスペイン語文を読みます。

○受講条件：面接授業「ベーシック・スペイン語1」を受講済みか、またはそれに相当するスペイン語力（直説法現在）を有すること。ゼミは教室での対面と Zoom を利用した遠隔のハイブリッド形式で実施します。